

科目名	地理学概論	英文表記	Geography	3月7日			
科目コード	3016						
教員名:木村和雄 技術職員名:				作成			
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
全学科	3年	必	履修	2単位	講義	通年	
科目目標	1自然環境と人間活動の関わりを地理的観点から理解できる。2産業活動の歴史的発展過程と現在の地域的特性を理解できる。						
総合評価	前期・後期評価:中間・期末試験の得点によって評価する(100%)。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)		達成度目標の評価方法		目標割合		
	①	自然環境と人間活動の関わりを地理的観点から理解できる	⇒	理解度を定期試験で評価する。	50%		
	②	産業活動の歴史的背景を現在の地域的特性を理解できる	⇒	理解度を定期試験で評価する。	50%		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
				◎			
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		100	0	0	0	100	
基礎的理解		100				100	
応用力(実践・専門・融合)						0	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲						0	
授業概要、方針、履修上の注意	授業は主に講義形式で行う。 講義は科目目標である1)地圏環境と空間利用、2)産業立地、およびそれらの総体としての、3)人口の分布・構造と変化、以上の3テーマに焦点を当てる。 それぞれについて、知識や情報読解能力の定着を定期試験で評価する。						
教科書・教材	教員が作成した講義資料およびプレゼンテーション資料						

**授 業 計 画**

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	地理学への招待	2	授業の進め方と学説史を概説する。		
2	静気候1	2	地球規模の成帯的な統計気候を学ぶ。		
3	静気候2	2	日本や沖縄の統計気候的位置を知る。		
4	動気候	2	天気図や衛星画像などから気候を学ぶ。		
5	応用気候	2	気候のもたらす恩恵や災害について知る。		
6	土壌と植生	2	成帯的な地圏環境について学ぶ。		
7	水文循環	2	水の分布と動きについて知る。		
8	前期中間試験	2			
9	内力と地形1	2	地球規模の地形について学ぶ。		
10	内力と地形2	2	日本や沖縄の地形的骨格を知る。		
11	外力と地形1	2	山地・丘陵地について学ぶ。		
12	外力と地形2	2	低地・台地について学ぶ。		
13	応用地形	2	地形のもたらす恩恵や災害について知る。		
14	地形と土地利用	2	地形と人間生活の関係を学ぶ。		
15	地圏環境に関する演習	2	地形図または主題図の判読演習を行う。		
期末	期末試験	[2]			
16	産業基盤の地域性1	2	世界の第1次産業立地について概観する。		
17	産業基盤の地域性2	2	日本の第1次産業立地について概観する。		
18	近代工業の成立と展開	2	世界の工業立地について学ぶ。		
19	日本の工業地域1	2	日本における近代工業の成立と展開を学ぶ。		
20	日本の工業地域2	2	構造転換期の工業立地を分析する。		
21	日系製造業者の立地展開	2	工業立地の業種別の事例を学ぶ。		
22	工業地域の変容	2	工業立地の地域別の事例を学ぶ。		
23	後期中間試験	2			
24	世界の人口1	2	地球規模の人口分布と変化を学ぶ。		
25	世界の人口2	2	人口の社会的構造から国別の特徴を把握する。		
26	日本の人口1	2	日本国内の人口分布と変化を学ぶ。		
27	日本の人口2	2	日本における人口の社会的構造を学ぶ。		
28	集落と都市	2	人口の集積する「場」を知る。		
29	商業立地1	2	中心地理論と商圏の関係を学ぶ。		
30	商業立地2	2	日本国内における商業立地の変化を知る。		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		60	実時間	45	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的の所用時間(試行)	
①					
②					
③					
<b>備考欄</b>					